

国際生物多様性の日について

毎年5月22日は、国連が定めた「国際生物多様性の日（International Day for Biological Diversity: IDB）」であり、毎年、共通のテーマに沿って世界各地で生物多様性問題に関する普及と啓発を目的としたイベントが開催されている。

1993年に定められた当初は、生物多様性条約の発効日である12月29日だったが、2000年の国連総会において現在の5月22日に変更された。この日は、1992年の同日に生物多様性条約の本文が生物多様性条約交渉会議において採択されたことに由来している。

なお、今年のテーマは「開発のための生物多様性（Biodiversity for Development）」。

また、2008年より、国際生物多様性の日の現地時間午前10時に、世界各地で青少年の手により植樹等を行う「グリーンウェイブ」への参加が、生物多様性条約事務局から広く呼びかけられている。（参考資料3参照）

<参考：過去8年間のテーマ>

- 2002年 森林における生物多様性
(Dedicated to forest biodiversity)
- 2003年 生物多様性と貧困削減－持続可能な開発への挑戦
(Biodiversity and poverty alleviation - challenges for sustainable development)
- 2004年 生物多様性：すべての人のための食料、水、健康
(Biodiversity: Food, Water and Health for All)
- 2005年 生物多様性：変化する世界での「生命保険」
(Biodiversity: Life Insurance for our Changing World)
- 2006年 乾燥地帯における生物多様性の保護
(Protect Biodiversity in Drylands)
- 2007年 生物多様性と気候変動
(Biodiversity and Climate Change)
- 2008年 生物多様性と農業
(Biodiversity and Agriculture)
- 2009年 生物多様性と侵略的外来生物
(Invasive Alien Species)